

次の文章をよく読んで、5ページから6ページにある問いに答えなさい。

<紙と私たちの生活>

私たちの生活に、紙は欠かせないものといえます。身のまわりに少し目を向けてみただけでも、私たちはさまざまなところに紙を利用していることに気づくでしょう。新聞や書物のように文字を読んだり、日記や手紙のように文字を書いたりするのに使われているだけではありません。買い物をしたときの包装や、家電製品を入れる箱、そして建物の素材にいたるまで、あらゆるところで紙は使われています。

人びとはさまざまなかたちで紙を用い、生活や文化を豊かにしてきました。私たちにあってありふれた素材である紙は、実は歴史のなかでも、とりわけ大きな発明品のひとつなのです。

<和紙の発明>

紙は中国で発明されたと考えられています。4世紀頃、朝鮮半島を通して日本列島にも伝わりました。『日本書紀』という書物には、推古天皇の時代に、朝鮮半島からきた僧が、紙や墨を作る名人であったと記されています。

日本で作られた最古の紙は、奈良の東大寺にある【 ① 】に、他の宝物とともに所蔵されています。それは、都から遠く離れたところで作られた紙でした。当時、紙はとても貴重なものだったのです。ア地方で作られた和紙は、朝廷に税として納められました。その頃には、もっぱら戸籍を記したり、お経を写したりするために使われていたようです。やがて技術が発達するにしがたい、コウゾ(楮)などのさまざまな植物繊維を混合して、丈夫でうつくしい紙が生産されるようになりました。古くから日本で独自に生産されてきた紙を、現在では和紙とよんでいます。

和紙の発達とともに、文字を書くため以外にも、いろいろなところで紙が使われるようになってきました。平安時代の絵巻物の発達は、くり返して巻いたり開いたりしても破れにくい紙の開発によるところが大きかったといえるでしょう。また障子やふすまといった建物の一部にも、紙は利用されるようになってきました。室町時代になって、現在の和室のもとになっている【 ② 】とよばれる建築様式が広まると、ますます紙が建物に使われるようになったのです。

この頃には、何かを書いた紙の裏側を再利用することは、当たりまえのように行われていました。イ当時作られたふすまをはがしてみると、そこに手紙や習字に使われた紙がはられていることがあります。一度使用した古い紙を原料とすることもあり、こうして作られた紙は、ちり紙などの粗末な日用品として流通するようになってきました。日本では、古くから紙は人びとの日常必需品であり、とても大切なものとして扱われてきたのです。

<江戸時代の和紙>

江戸時代になると、和紙が生活のあらゆる場面で必要とされるようになりました。各地でうすくて丈夫な和紙が開発され、半紙や障子紙、傘にはる紙など、それぞれの使いみちに適した紙が、各藩によって工夫されました。原料のコウゾが栽培しやすいこともあって、和紙は藩の専売品として、大きな地位を占めるようになりました。それは藩の財源のひとつとなり、ウ美濃や土佐などのように、和紙を特産品とする地域も生まれました。

文字や絵などを書き記す紙の利用もふえてきました。武士や公家ばかりではなく、百姓や町人も文字を書き、紙を使うようになりました。江戸時代は、武士から村への通達は、書面を用いて行われました。百姓たちは、自分たちの不利益にならないように、そうした通達などを正確に理解し、文字をしっかりと読み書きする必要があったのです。

江戸(今の東京)や大坂(今の大阪)などの都市では、各地で起こる事件や災害などを知らせるかわら版もさかんに出されました。当時の技術では何万部も出版できませんでしたが、そうした情報は、人の手によってつぎつぎに書き写されながら、より遠くへ伝えられていったのです。天保のききんの頃、幕府の元役人だった【 ③ 】という人物が大坂で反乱を起こしたという情報は、全国のいたるところで書き写されていたことが知られています。

幕府や各藩では、自分の支配する地域や城下町の絵図を作りました。さらに【 ④ 】は、幕府に願い出て、自費で蝦夷地(今の北海道)の測量を行い、その地図を作りました。その後、【 ④ 】は、工幕府の援助を受けながら全国各地を測量したのです。しかし、こうした地図から情報を得ることができたのは、海外の書物からの情報と同じく、武士など一部の者に限られていました。

<洋紙の登場>

明治時代になると、新しく発足した政府は、オそれまでの和紙とは異なる特徴を持つ洋紙の生産を始めました。洋紙とは、欧米の技術で作られた紙のことです。政府は、近代国家の建設のために、紙幣や切手などを国内で作ることを必要としました。そこで欧米からやってきた外国人技術者の指導のもとで、近代的な製紙工場が建設されたのです。

さらに文明開化とよばれる新しい時代の空気の中で、出版がさかんになりました。それとともに、洋紙の生産が増加していきました。また、写真や地図などの文字以外の情報も、新聞、雑誌、書物そして教科書などにさかんにのせられるようになりました。

洋紙はさまざまな目的で使われましたが、何よりも情報の伝達手段として、重要な役割を果たしてきました。また郵便制度の発達などによって、情報をすばやく、人びとに伝えることが可能になりました。情報を伝達する手段としての紙の使用量は、それまでの時代とは比較にならないほどに多くなったのです。

<新聞と情報>

明治以降において、紙と情報の関係を考えたときに、避けて通れないのは新聞の登場でしょう。新聞は日清・日露戦争などを通して発行部数を伸ばし、社会に大きな影響を与えるようになりました。しかし、1937(昭和12)年の日中戦争開始から、1945(昭和20)年の敗戦まで、新聞は政府と軍のきびしい統制下に置かれていました。そういう時代をのりこえて、新聞は人びとの情報伝達の手段として、重要な地位を占めるようになったのです。

新聞の重要性は、第二次世界大戦後になってますます高まってきました。このことは、新聞用紙の生産量が増大したことに示されています。またそれは、新聞の発行部数の多さからもわかります。日本は、世界有数の「新聞大国」なのです。

新聞は、正確な情報を早く知らせることが第一の使命です。力民主主義社会にとって、新聞の伝える情報はなくてはならないものです。新聞社は、記者が取材をしてきた記事を、いち早く編集し、そして印刷して、配送しています。どの紙面に何をのせるか、その見出しの大きさと記事のくわしさをどうするかが、新聞社によって決められているのです。読者は、記事が編集されていることに注意が必要です。

また現在の新聞の紙面の約4割は広告です。新聞社の収入は、読者の購読料だけでは不十分なので、広告料にもたよっているのです。キこのことが新聞記事の内容に影響を与える可能性があります。

<紙と私たちの社会>

新聞は、情報を大量にすばやく伝達する手段として、大きな役割を果たしてきました。しかし、新聞だけが、そうした情報伝達の手段ではないことも事実です。ラジオやテレビなどの、音声や映像をともなった情報伝達の手段も大きな役割を果たしてきました。さらに最近では、インターネットの発達と広まりによって、情報伝達のあり方は大きく変わってきています。ク今では、新聞記事の内容も各新聞社のホームページで知ることができます。私たちはさまざまな手段によって、情報を得ることができるようになりました。

しかしこのように、紙以外の情報伝達の手段が増えてきたにもかかわらず、情報伝達に用いられている紙の生産量は減っているとはいえません。最近10年間の新聞用紙の生産量や、新聞の発行部数は、ほぼ横ばいです。また紙全体の生産量を見ても、けっして減ってはいないのです。

ケ私たちの社会では、紙はさまざまに利用されて、大きな役割を果たしてきました。しかし現在、ほとんどの紙は、利用後には捨てられる運命にあります。

紙は、さまざまに加工して利用でき、不要になれば簡単に処理できます。ある意味で、私たちはそうした紙の性質を長所として用いて、生活を便利にしてきたといえるでしょう。一方、その性質は、同時に短所にもなります。ココのような紙の性質ゆえに、紙を大量に生産し消費する現在の社会は、より大きな困難に直面することになってきたのです。しかし、その困難を解決するのはそう簡単ではありません。なぜなら、サ私たちの社会は、情報伝達の手段をはじめ、生活のあらゆる場面に紙を利用することでつくりあげられてきた社会であるからです。

- 問1 空らん【 ① 】から【 ④ 】にあてはまるもっとも適当な語を書きなさい。
- 問2 下線部アについて。当時このような税はどのような名称^{かいらう}でよばれていましたか。漢字1字で書きなさい。
- 問3 下線部イについて。ふすまの裏に残されたこのような紙は、当時は不要とされたものでしたが、現在の私たちからみると、とても貴重なものとなることがあります。どのような点で貴重となるのですか、答えなさい。
- 問4 下線部ウについて。「美濃」と「土佐」は現在の何県にあたりますか、答えなさい。
- 問5 下線部エについて。幕府が、この頃、全国各地の地図を作ることを援助した理由を答えなさい。
- 問6 下線部オについて。和紙とは異なる洋紙の特徴は何ですか、2つあげなさい。
- 問7 下線部カについて。民主主義社会にとって、なぜ新聞の伝える情報は必要なのでしょう、説明しなさい。
- 問8 下線部キについて。新聞社が広告料にたよることが、なぜ新聞記事の内容に影響を与える可能性があるのでしょうか、説明しなさい。
- 問9 下線部クについて。今では新聞社もそれぞれ独自のホームページを持っていますが、そのホームページと比べて、新聞の紙面はどのようにちがっていますか。おもなちがいを2つあげて、「新聞は」という書き出しに続くように書きなさい。なお、必要があれば、6ページの資料を参考にしなさい。
- 問10 下線部ケについて。私たちの生活に役立っている紙の用い方の例を、情報伝達の手段以外で1つ取りあげなさい。そして、それが紙のどのような性質を利用しているのかを説明しなさい。
- 問11 下線部コについて。なぜ現在の社会は、より大きな困難に直面することになったのですか。60字以上100字以内で書きなさい。ただし、句読点も1字分とします。
- 問12 下線部サについて。紙と私たちの社会は、切っても切れない関係にあります。例えば、新聞が民主主義の発達に大きな役割を果たしたことは、すでにふれたとおりです。では新聞以外で、紙を使った情報伝達の手段を1つ取りあげ、それを用

いて私たちがどんな特色を持った社会をつくりあげてきたのか、120字以上160字以内で書きなさい。ただし、句読点も1字分とします。

参考:新聞社のホームページの例

(上の図は実際の新聞社のホームページをまねたものです。なお記事の内容は変えてあります。)

<問題はここで終わりです>